

日 時：平成 27 年 3 月 28 日（土） 14：00～16：00

場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者：内山委員長、平形委員、建部委員、山本委員、福島委員、高桑委員、高松委員、
渡辺委員（ネット参加）（事務局 井端事務局長、平田職員）

1. 今後の研究課題について

基礎知識の定着を徹底するために e ラーニングによる反転授業を実験的に行う予定であったが、委員の大学に協力いただくことが困難になったことから、今回は平成 27 年度に向けた本委員会での研究課題について改めて検討し直すことにした。意見交換の内容と検討結果は下記のとおり。

まず、事務局より話題提供として新聞記事の紹介と他委員会での検討内容を紹介した。

新聞記事にある新潟大学の事例では、1 年次の夏休みに臨床実習として開業医の往診に学生と担当教員が随行し、直接患者に接することで医師としての態度や学修意欲を高める取り組みを行っており、日本の大学も世界基準のカリキュラムを目指した医学教育とそれを実現するための ICT 活用が必要なのではないか。

本協会の歯学教育 FD/ICT 活用研究委員会においても、世界基準カリキュラムを目指した歯学教育と ICT 活用を検討しており、全身の健康に配慮し医療、保健、福祉に対応した歯学の教育方法と ICT 活用のカリキュラムマップを作成し、医学委員会とも合同委員会を開催して意見を伺いたいとしている。

次回に以下のとおり意見交換を行った。

- ・これまで話題にあげられていた反転授業は医学教育のどの場面で活用できるか。
- ・基礎医学の授業で知識を活用するような議論を行えば反転授業は効果があるのではないか。
- ・反転授業は予習での知識定着と授業での知識活用、復習の 3 つから成り立つので、ICT を活用した教材制作だけに終わらない。また、教材は各授業のために作るのだからかなり個別性が高いのではないか。
- ・反転授業で現在 100 名程度の授業でどのようにディスカッションに学生を参加させるのか、かなり難しいと思われる。欧米ではディスカッション授業が中心なので、学生も授業に向き合う姿勢が異なる。
- ・優秀な学生と優秀でない学生のどちらかのレベル向けになるのではないか。通常の授業では実施が難しいのではないか。
- ・初年次に学生の意欲がないときに実施するのは難しいのではないか。
- ・東京女子医科大学では 23 年前の教育改革の際に、国家試験の合格を目標ではなく、将来としての能力を身につけさせることを目標にし、予習徹底のための事前学修の仕組みと個人の能力に応じたチュートリアル教育を実施している。
- ・PBL でも学生のモチベーションが重要。慶應義塾大学では全学生に iPad を持たせ、予習教材などを事前に見ることができるようにしているが、教材をネット上に掲載することについては学内での著作権処理の対応が必要となっている。
- ・反転授業の教材を委員会で作るのではなく、反転授業の方法を FD として検討していくのはどうか。
- ・スタンフォード大学医学部でも 2011 年から反転授業を初年次教育で実施しているので調べてみたほうがよい。

- ・私情協が持っている事例では、初年次教育でのICT活用教育はどうか。教養教育の教員が医学部では少なく、ICT活用の導入事例なども参考になる。
- ・教養教育以外に専門科目に結び付けられる教育が必要ではないか。
- ・香川大学の反転授業の事例は1コマだけなので、もっと組織的に努力している事例があると医学教育でも参考になるのではないか。
- ・東京女子医科大学では事前に学生に学ぶ機会を提供するため教材・資料等を授業2週間前からネットに掲載し、学内で予習させるようにしており、授業に効果をもたらしている。また、教員の80%が掲載しているので、他の教員の授業を把握し連携することも可能にしている。
- ・ICTを活用した双方向型授業として、東京女子医科大学では臨床推論の授業でレスポンスアナライザーを活用したTBL教育は実施している。
- ・慶應義塾大学、順天堂大学はTBLを実施、さらに順天堂大学はクリッカーを導入している。クリッカーは使わずスマホにソフトをダウンロードして活用することもできるが英語バージョンとなっている。
- ・ダウンロードソフトは、フリーソフトが私情協の発表会でも紹介されていた。
- ・そのような情報を交換できる場があるとよい。
- ・国際認証と合せて、個別の目標を達成したかを評価するためにLMSで個別に問題を作成し、それが到達できたかどうかを評価することを検討中である。
- ・国際認証に合せてICTをどう活用していけばよいかは、医学教育ではあまり取り上げられていないのではないか。それは委員会の研究テーマではないか。
評価の他に、臨床実習を増やすために授業を効率的に行うためのICT活用も考えられるのではないか。個々の大学で実践例をもっているのだから、これを集めることはできるのではないか。
- ・国際認証を踏まえたICTを活用した医学分野の授業づくりがあるのか、教育事例を集めて情報を整理した上で、Webに掲載し提供していくのがよいと思われる。

以上の意見交換を踏まえて、今後の委員会では、世界に通用するカリキュラムを実践する上で必要となるICTを活用した教育方法について検討することにした。

具体的には例えば、知識定着を試みる反転授業、レスポンスアナライザーを導入したTBL（チーム・ベースドラーニング）、ネット上で臨床診断、医療に関する実践的な問題等をフォーラム形式で討論する複数学年による学び合いの授業とICTを活用、LMSによる学修行動のモニタリングなど実践事例等を収集し、優れた事例をWebに掲載し共有できるよう平成27年度から始めることにした。

2. 27年度の第1回委員会

27年度第1回委員会の開催日時は、7月～8月の間で改めて日程調整を行った上で決定することにし、上記のICTを活用した教育事例を集め、検討を始めることにした。

以上